

～内部被ばくから体を守る授業～

「東京にも放射線があることに驚いた。」「放射線を身体から出す方法が分かってよかった」「3.11の前後での違いを具体的に見られたから実感がわいた。」上板橋第二中学校2年生



真剣にメモする上二中学生

計測器で教室の放射線を計る



新年に入った1月17・18日上板橋第二中学校で、2年生3クラスに、「放射線から体を守る生活の仕方」の授業プログラムを実施しました。

一人1台ずつ計測器を手に、床から1mのあたりで計っていきます。(計器 文部科学省から45台借用)

(2ページへつづく)



2013年2月8日現在、未だに板橋区役所前0.08 μ SV/hの高止まり

.....◆◇□◇◆◇□◇◆◇□◇◆◇□◇◆◇□◇◆◇□◇◆◇□◇◆◇□◇◆◇□◇◆◇□◇◆◇□◇◆◇.....

ヒロシマからフクシマへ～内部被ばくを考える

—被ばく医師・内部被ばく研究60年の—

肥田舜太郎先生 特別講演会



3月16日(土) 2時～4時

於：グリーンカレッジホール4F

都営三田線 志村三丁目駅5分

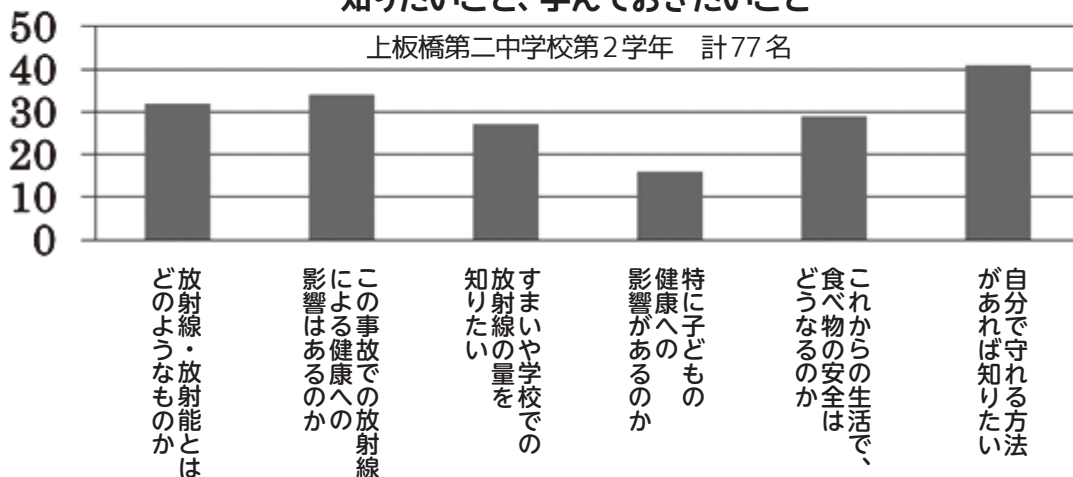
申し込み先：センスオブアース事務局

Fax: 03-3960-6052

mail: info@npo-soe.jp

氏名・連絡先・学生の方は「学生」と明記

知りたいこと、学んでおきたいこと



始めは事前アンケートの結果を提供。一番多かったのが、「放射線から自分で守る方法を知りたい」でした。放射線とは何かを学んだあと、教室の放射線を計り、実際に放射線がその場にあることを実感していました。教室は $0.063\sim 0.065\mu\text{SV/h}$ 、校庭は 0.04 前後、雨どいの下は $0.05\sim 0.06$ (平均値) でした。

その後、生活の中で体を守る食品の選び方・調理の仕方・身体から早く排出させる方法を学び、各自ができることを目標として具体的に出し合いました。

自分たちで校庭の放射線を計る



生徒たちの感想

- 「前にテレビで放射線について聞いたが、よくわからなかった。今日の授業で人への影響などがわかった。自分たちで計るなど、体験できた。」
- 「身の回りの放射線の量が分かってよかった。」
- 「食べ物の中の放射性物質をよく洗ったり、ゆでたりすることで減らせる事、免疫力を高めることが大切だと言うことが分かった。」
- 「どんな食べ物を食べた方がいいかがわかってよかった。」
- 「身体の中から放射線を出す方法が知れてよかった。」
- 「食べ物によっても体を守ることができることがわかってためになりました。」
- 「放射線に対する知識を身につけることができたので、今回の学習がとてもためになった。」



身体を守るライフスタイルの目標を発表中

「変えよう!ライフスタイル」 第11回 環境なんでも見本市

2月2日～3日
於 エコポリスセンター

2,970人来場で、大盛況!

SOE 展示ブース
みぞづくり・放射線・好きな色を見つけようの授業掲示



センスオブアースも出店し、参加団体48。センスオブアースは、授業プログラム実施の数が多く、12月～1月に行ったものを主に展示しました。

環境生活報告会では、区内の中台中学校の科学部の生徒たちが、「南極にみどりのカーテンをつくらう」の意欲的な学校内での実験結果を発表しました。中学校の生徒自身が、零下の寒さに耐えられる植物の耐性実験を成功させたのには驚きました。付き添われた中学校の中里先生・高橋先生や講師の方々の熱意も素晴らしいです。センスオブアースは、中台中の科学部の活動にエールを送ってきました。

来場された方々は、現役の学校教師や、子育て中の若いご夫婦、また、クイズラリーに参加した子どもたちなど、皆さん、生活に生きる環境教育を楽しんでくださったようです。

今年度は、おもちゃの「かえっこバザール」が開催され、大勢の親子が参加し、クイズラリーで貯めたポイントをおもちゃと交換したり、おもちゃのオークションに参加したりと大賑わいでした。活動交流会では、異なる団体同士、良さを生かした協働を望んでいる団体が目立ち、今後の協働成立が期待されます。



中台中学校科学部による科学実験の堂々たる発表

「はらから」の豆腐屋さんの武田さん



協働の話に盛り上がる活動交流会



熱心に見てくださる来場者と SOE スタッフ白石



家政大学の学生たちに、NPOの説明をする SOE スタッフ 北野

東京家政大学—1月23日 「NPO論」授業

センスオブアースが授業実施

日本女子大学人間社会学部准教授 宮地孝宜先生の授業の一環として、私たちは、NPOのミッションと実践・課題などを同大学で語りました。

当日は90分の授業。全体を3つに分け、はじめに、NPOの成立の経緯から、活動の目的、歴史の後、プログラム実践の一つを学生たちに体験していただきました。今回は、計測器を使って、放射線から体を守る生活の仕方を、学びます。その後、NPOの組織の課題や、事前にたくさん出されていた学生の質問に答えました。学生たちは、模擬NPOで活動計画を立てているので、大変熱心に聴いている姿が印象的でした。



◆学生たちのふりかえり◆

NPO団体としては、最初は環境問題に取り組んでいても、その時の環境によって問題解決の内容も変わるという柔軟性に驚いた。

NPOとしては、何を目的にしているのか、それが社会にとってどのような効果をもたらすのかということを外にアピールしていくことが重要であると感じた。

実際に放射線を計測して確かに真実が分かると怖いという思いから、半ばあきらめのようにニュースをながめていたのを思い出した。しっかりと向き合って大切なことを情報として提供してくださったのでうれしかったです。もっと私自身が考えていこうと思いました。

放射線についてのニュースが減って、意識しなくなりがちだけれど、まだまだ変わらず放射線の中に私たちは生活していることを忘れてはいけないなと思った。

授業で模擬的にNPO法人を設立したが、収支会計がめんどくさい。自分たちのやりたい事業をやるのに会費を高くしたり、企業に訴えて補助金を得るように紙面上ではしたが、補助金を得るのは大変だということの方がわかり、お金の問題が一番大きいのかな。

放射能で漏れたものは戻せない。だから、仕方ないだろうとあきらめ気味でしたが、自分で自分の健康を守るためにできることがたくさんあるとわかり、意識が変わりました。